

2024年度(令和6年度)「重点研究」成果発表会資料

開催日：2025年6月5日（木）

子どもの「主体性〈agency〉」を育む保育に関する研究 －日本と中国のフィールド調査による国際比較を通して－

上山瑠津子・劉郷英・池田明子・今中博章・高澤健司
(福山市立大学教育学部)

問題と目的

これからの目指す子どもの姿

- ・「**主体的に**学習に取り組む態度」「**主体性を持って**多様な人と協働して学ぶ態度」（中央教育審議会、2016）
- ・2018年改訂の学習指導要領では、「**主体的・対話的で深い学び**」が示された。
- ・OECD（2019）の「Education2030ラーニング・コンパス（学習枠組み）」において、中核的概念に「**エージェンシー**（student agency）が位置づけられ、「**変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力**」と定義される。



図1. OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

子どもの「主体性〈agency〉」の捉えの多様性

白井（2020）によれば、「主体性〈agency〉」の捉え方は、**個人の目標達成を重視する西洋と集団の調和の維持を重視する東洋では文化的な違い**がある。（例えば、日本と中国は集団の文脈で捉える）

・保育・教育の営みは、その国や地域の歴史、制度、文化に根差した社会的行為であることから、**国際的な視座に立てば、それぞれの国や地域における議論と実践の在り方を検討していく必要**がある。

国際的視座から「主体性〈agency〉」を捉える

- ・ **中国では2000年代後半**から全国各地の幼児園で、遊びと学びを融合するカリキュラム開発、新しい教育実践を模索が開始（劉，2019）。
- ・ 日本における「**遊びを通して総合的に学ぶ**」ことと**共通**している

東アジア圏として集団の文脈で「主体性〈agency〉」を捉えるとされる中国における議論や保育実践が展開は、**日本の議論や課題を相対化して捉えること**を可能にし、実践的課題に取り組む上でも多角的な視点を得ることが期待される。

【本研究の目的】

日本と中国の国際比較を通して、近年の保育・教育分野において中核的概念とされる「主体性〈agency〉」を育む保育実践の様相を明らかにすること

方法

調査 1

目的：中国における子どもの「主体性」の観点を明らかにする。

対象：2012年に中国教育部（日本の文部科学省に相当）が公表している「3～6歳児の学習と発達ガイドライン [3-6岁儿童学习与发展指南]」の中国語原文

方法：テキストマイニングによる分析と考察を行った。

結果と考察

1. 「主体性」や「主体」の語は抽出されなかったが、関連する語として「**主动**」(自発的)及び「**愿意**」(自ら進んで~する)「**积极**」(積極的)、「**自主**」(自主的)、「**自发**」(自発的)、「**独立**」(自立的)等の7種類の語、のべ72語が確認された。中国において子どもの「**主体性**」を尊重し、育むことを重視しているといえる。

2. 階層的クラスタ分析の結果から、子どもの「**主体性**」を育むうえでの留意事項が含まれており、**教師や保護者にとって、まさに手引き的な内容を「ガイドライン」は含まれていた。**

表2 コード化の結果

	「子どもの主体性」と意味的に重なる語	大人の側の主体性を意味する語	「主体性」とは異なる意味で用いられている語	計
主动	22	2	0	24
愿意	24	0	0	24
积极	9	1	4	14
自主	10	0	0	10
自发	4	0	0	4
独立	2	0	0	2
独立性	1	0	0	1
积极性	0	1	0	1
計	72	4	4	80

結果と考察

子どもの「主体性」の2つの側面の育成については、「**社会**」領域と「**芸術**」領域に含まれていた。

表4 「社会」における「子どもの主体性」について述べた文の例

1. 自ら進んで友達と一緒に遊ぶ。
2. 楽しいことや面白いことがあれば、自ら進んでみんなと共有する。
3. 自分のことはできる限り自分でやり、他人に頼らないように自ら進んでする。 **他7項目**

表5 「芸術」における「子どもの主体性」について述べた文の例

1. 幼児が自分の好きなダンス、演劇、絵画、工作作品を積極的に紹介する際には、忍耐強く耳を傾け、積極的な反応と励ましを与えることが大切である。
2. 積極的にアート活動に参加し、自分が特に好きな活動の形式を持っている。 **他5項目**

表3 パートごとの「子どもの主体性」について述べた文の数と文の総数に占める割合

パート	「子どもの主体性」について述べた文の数 (a)	文の総数 (b)	割合 (a) / (b)
説明 (説明)	2	19	10.53%
健康 (健康)	8	201	3.98%
语言 (言語)	15	131	11.45%
社会 (社会)	24	154	15.58%
科学 (科学)	2	163	1.23%
艺术 (芸術)	11	71	15.49%
全体	62	739	8.39%

方法

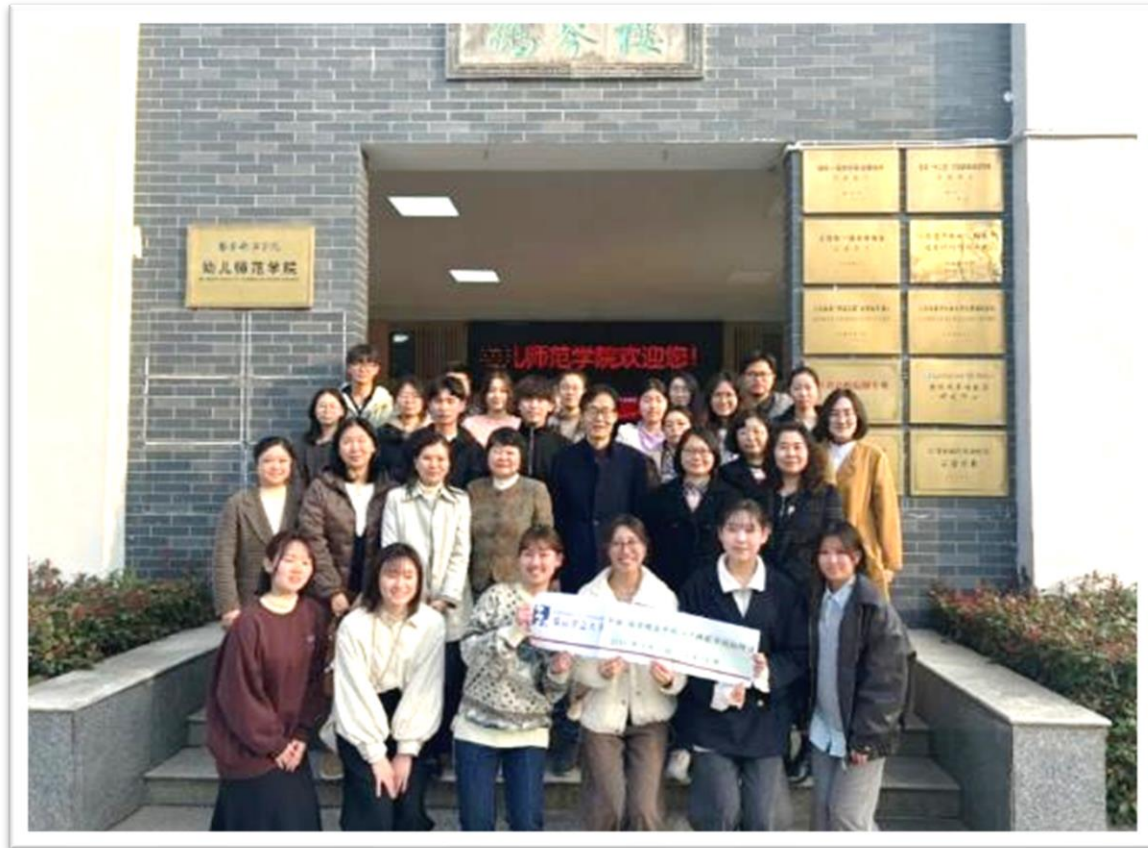
調査 2

目的：幼稚園等のフィールドワークを通して、の子どもたちの「主体性」の育む教育実践を明らかにする。

対象：本学協定校である中国南京市にある南京曉庄学院附属幼稚園、小学校（6施設）および杭州市安吉県の幼稚園（6施設）

方法：子どもたちの遊びや生活の姿、保育環境など観察、および園長や主任教諭等への聞き取り調査を行った。

中国協定校との交流



結果と考察

1) 地域の素材や文化を導入する



中国では、「カリキュラムの遊び化」の方針のもと、子どもたちが主体的に遊びや活動に向かう素材や環境の工夫されていた。地域特産のお茶、季節の野菜や山菜等が使われており、教師の援助のもと軽食（お焼き、餃子など）を作って楽しむ姿が見られた。



保育施設に併設する博物館では、親子で「紙」づくり体験ができる。訪問園でも保育活動の中で「紙」づくりをしており、「紙」という素材を製作過程から体験することで、**中国文化における「紙」の重要性を幼少期から体験的に学ぶ機会**が設定されていた。子どもたちは、実際に手を動かし、溶ける紙を様子を楽しんでいた。

結果と考察

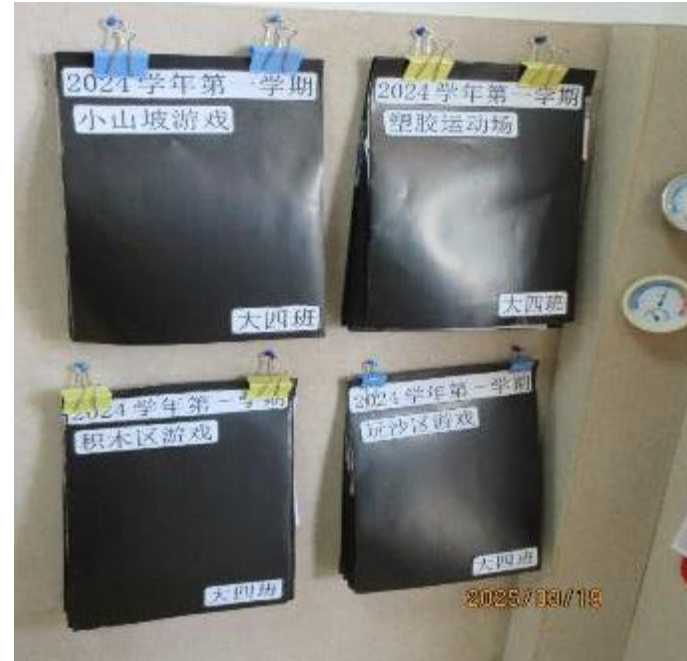
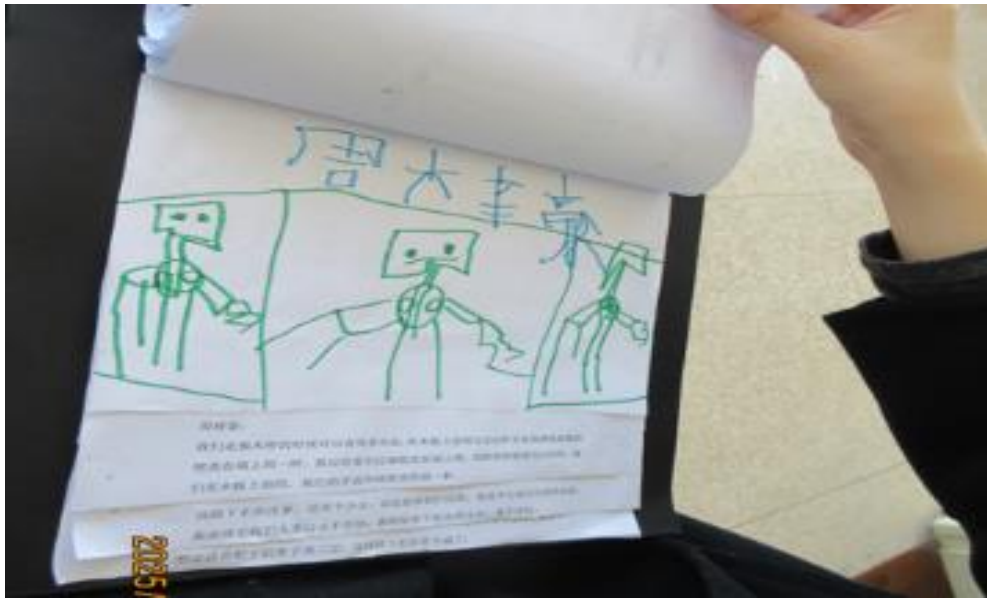
2) 生活体験を重視する



3歳児クラスでは、外遊びで汚れた靴下を洗い、自分で干す姿も見られた。また、クッキングの時間には、子どもたち自身が料理をする工程すべてに関わっており、日常の生活体験を主体的に営むことを重視した保育活動を設定していることがうかがえた。

結果と考察

3) 遊びの経験を記録し、可視化する



杭州市安吉県で展開される「安吉遊戯 (Anji Play)」は欧米を中心に世界的に注目を集める教育実践である (劉, 2019)。遊びの後に子どもたちが毎日絵で、自分の経験や興味関心を表現し、教師は、子どもが何を表現したのか、その絵にどんな思いが込められているのかを聴き取り、子どもの声を文字で表してい。遊びの経験が継続的に、記録として可視化されることで、子どもの遊びへの意欲を高め、主体的な遊びを支えていることがうかがえた。

まとめ

- 中国のガイドラインにおいては、「主体性」や「主体」の語は抽出されなかったが、「自発的」「自立的」等の関連する語が確認され、日本と同様に中国においても保育や子育てにおいて「主体性」を尊重し、育むことを重視している。
- 特に、中国では、子どもが主体的に遊ぶための保育環境として地域や文化の要素を恒常的に取り入れていた。また園生活では、食事、片付けなどの日常生活に必要なスキルを遊びを通して経験することが重視されていた。
- 以上から、遊びと文化、遊びと生活の融合において、子どもの主体性と実践のあり方に中国特有の特徴が見いだされた。

引用文献

- OECEラーニングコンパス2030 <https://www.oecd.org/en/data/tools/oecd-learning-compass-2030.html> (情報取得日：2024年5月25日)
- OECEラーニングコンパス2030 仮訳 chrome-extension://efaidnbnmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/concept-notes/OECD_LEARNING_COMPASS_2030_Concept_note_Japanese.pdf (情報取得日：2024年5月25日)
- 劉郷英（2019）中国における乳幼児教育・保育改革の過去・現在・未来，保育学研究 57 (2), 150-166
- 白井俊（2020）.OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来エージェント，資質・能力とカリキュラム，ミネルヴァ書房
- 中央教育審議会：幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（2016），https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (情報取得日：2024年5月25日)

本研究課題の成果発表

- ・今中博章・劉郷英・上山瑠津子・池田明子・高澤健司（2025）中国の就学前教育における子どもの「主体性」の育成に関する考察：「3～6歳児の学習と発達ガイドライン」の計量テキスト分析による，福山市立大学教育学部研究紀要第13巻，pp.1-11.
- ・2025年度日本乳幼児教育学会第35回大会（12/13-14会場：西南学院大学）での自主シンポジウムでの話題提供（予定）



ありがとうございました。

ご質問やご意見いただければ幸いです。
よろしくお願いいいたします。

